

令和2年度 自己評価集計結果

令和3年3月16日
世田谷区立松沢小学校

No	評価の観点	肯定的 評価	否定的 評価	具体的な改善策
1	学習指導要領の改訂の趣旨を理解し、評価と指導の一体化を図る。	100	0	
2	ユニバーサルデザインの指導方法や環境整備について研究し、児童一人一人の状況に即した支援を行い「分かる授業」を実践する。	90	10	環境整備について、学校または学年で統一する。 研究についてのUDは指針が出たが、教室環境などの面は学校で統一していくとよい。 環境整備について特別支援教育部で検討していますが実践には至っていない。 次年度スタート時に、共通の掲示物についてから提案できるようにする。 時計の位置や掲示についてなど、統一できるところを増やしていく。 環境整備はクラスはもちろん、専科教室も統一できるところはする。 教室環境については、個人差があると思うのでどこまで統一するか検討する。
3	授業改善推進プランに基づき、学年等で組織的に授業改善を行う。	97	3	学年会では授業の進め方などについて具体的な話し合いを行う。
5	プログラミング教育の年間指導計画を作成し、実践を通して、論理的に考える力を育てる。	72	28	年間指導計画の作成をする。 実践にあたり、校内での研修や資料を作成する。 年間指導計画を作成する。アナログプログラミングの教材を増やす。 全体に教員へのプログラミングの授業の仕方などの研修をする。 プログラミング教育の指導内容について検討する時間をとる。 今後、音楽科におけるアンブレグドで行えるような音楽づくりの授業計画を立てる。 本年度は授業時数が難しいため、取り組むことは難しい。来年度以降検討していく。
6	5・6年生の外国語科(英語に親しむ)、3・4年生の外国語活動(英語に慣れる)を中心に、様々な外国文化に触れ、日本人としてのアイデンティティを確立する教育を実践する。	97	3	くすのき学級にもALTの時間配置ができるようになりました。将来的には学級数分のALT配置をしていただけるように区教委に要望したい。
7	東京ベーシック・ドリルを活用し、4年生までに身に付ける学習内容の定着を図るとともに、4年生以上で定着度診断調査を行う。	64	36	ベーシックドリルの活用計画を立てる。 学年では、授業や夏の補習でベーシックドリルを活用できなかったため、今後はモジュールや学期末の復習として活用できるよう、印刷しておく。 朝活動にベーシックドリルを活用することに統一する 夏季補習やモジュールなどで活用する。 取り組んだ後に学年でフォローする時間をもつ。
8	校内委員会を適時開催し、特別な支援を要する「困り感」を抱えた児童について共通理解し、一人一人の個別支援ファイルを作成し、学年・学校全体での支援を充実する。	97	3	すまいるルーム入・退級検討も含めて「校内委員会」とするよう、次年度の教育計画に明記する。 代表委員会にきはだ・くすのき学級が参加できるのは大きな前進である。
9	共生社会での自立を目指したインクルーシブ教育システムの構築等の特別支援教育の充実を図る。	95	5	通常級、特別支援級の交流を充実させる。直接交流が難しいなら、間接交流を実施する。 感染症拡大防止の観点から、くすのき学級・きはだ学級と通常学級との交流が今年度はなかなかできていません。通常学級単にの先生方には、できる範囲で声を掛けていただき、できる形で交流が進めばよい。 来年度は年間計画の中に交流を入れる。
10	1学期にハイパーQUテストを行い、学年・学級経営の具体的な方策を学年で共通理解するとともに、2学期のテストとのデータを比較し、学級経営の成果や児童の学級満足度を分析し、学校・学級での居心地感を高めるための方策について再構築する。また、要支援群の児童に対する支援計画を作成・実施する。	90	10	知的固定学級はQUテストを実施していない。 実施しない。機械的に評価されても意味がない。 活用方法が十分に理解できていない。正確かどうか分からないこともある。 データを活用しきれしていない。児童理解タイムでミニ研修があるように、活用方法などが共通理解できると大きな成果につながると思う。
11	体力及び運動能力テストの結果を分析し、課題を明らかにして体づくり月間を充実させ、休み時間にも運動に取り組めるようにしたり、体育の指導内容の重点化を図ったりして体力や運動能力の向上を図る。	51	49	体力テストを実施していないので、課題を明確にした体づくり月間はできなかった。 体力テスト、体づくり共に学校全体での実施をしていない。(体づくりは、クラスの授業で実施) 体力・運動能力・生活習慣等調査は実施できていない。 来年度は兄弟学年で実施できるようにする。
12	オリンピック・パラリンピック教育の実践を通して、児童に意識の醸成を図る。	79	21	どの学年がどの時期に何をすればよいのかが分かる計画をする。 オリンピックが延期になったので、できなかった。来年は子供に意識させるような授業を取り入れる。 2021開催に向けて、計画的に実施する。
13	食物アレルギーのある児童への深い理解を通して、安全で安心な給食指導を行う。	100	0	
14	食に関する指導を実施し、児童に望ましい食習慣を身に付ける。	100	0	
15	国語の説明的文章について、主体的に読み、考え、表現するための指導方法を研究する。	97	3	次年度も引き続き校内研修を行い指導力を高める。
16	国語を中心に、全教科・領域を通じて、発達段階に応じた語彙の確実な習得と言語活動の充実を図る。	100	0	
17	人格形成や情操を養うため、朝読書や読み聞かせを実施するとともに、学校図書館の利活用と読書活動を推進する。	97	3	朝読書、読み聞かせなし。 各学級の学級文庫の数を充実させるようにする。
18	アクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、児童の自己肯定感やコミュニケーション能力を高める授業を行う。	95	5	対話的な授業をあまり実施できていない。
19	道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自分の生き方について考えを深める道徳科の授業実践を通して、本校の児童の特性を踏まえた、よりよく生きるための道徳的実践力の育成を図る。	100	0	

20	「松沢小学校のあいえお」(あいさつ・いのち・うんどう・えがお・おもいやり)をキーワードとして、基本的な行動習慣の定着を図る。	85	15	児童に挨拶を推進しているのに、教員の挨拶が小さい。積極的に声を出し、教員間での挨拶も元気に行う。 挨拶について不十分だと感じている。各学級で繰り返し指導したり、挨拶運動を行ったりしていく。 廊下の歩き方、挨拶の習慣等をもっと推進する。 校長先生の講話の中で多く学んでいる。教室でも話している。 NGワードをためらいもなく口にする、相手をおちょくったりあおったりする言動が多い。
21	安全指導や避難訓練、地域防災訓練を通して「自分の命を自分で守る」という考え方の定着を図り、自主的に行動できる児童を育てる。	97	3	廊下避難までのため実態が掴めないところがある。
22	児童の日常の清掃活動に力を入れるとともに、各分掌が連携して、ごみのない清潔な校内・外の環境を維持する。	46	54	1年生は掃除の存在も知らない。自分たちが使う場所をきれいにする意識をさせるために、幕を使った掃除などできたらいい。 今年度は児童の清掃活動は無し。教職員のゴミ分別の意識が低い。まずは職員室の可燃不燃、紙の3種リサイクルを職員が守る。主事の仕事を増やしているという意識をもってほしい。 清掃活動は実施できていないため、教職員が頑張っている。 実感としてゴミを拾わない児童が増えた気がする。来年度は清掃時間を設け、「来た時よりもきれいにする」習慣をつけたい。 帰りの会の際に机の整理とゴミ拾いの声掛けを心掛ける。
23	日本の伝統・文化の理解を年間指導計画に位置付けて、体験を充実し、日本人としてのアイデンティティを確立する。	92	8	感染症拡大防止のため、体験できていない。 コロナの影響で、体験が難しい。
24	総合的な学習の時間等でキャリア教育を実施し、児童に働くことの意味を考えさせるとともに、将来に対する夢や希望をもてるようにする。	97	3	キャリアパスポートは上手に活用できていると思う。総合での展開は今年度は難しい面があったので、次年度は従来通り活動できるとよい。
25	音楽・図工・家庭科等の芸術教科や芸術活動を通じて、心を動かす体験を味わわせ「豊かな感性」を育む。	100	0	音楽では和楽器に触れる学習を実践している。
28	運動会や展覧会、集会活動などの運営において児童が活躍する場を設定し、自主性を育てる。	92	8	できる範囲で実施しているとは思いますが… コロナの影響で5年生は、鼓体験のみ。
29	学級会について、学年の発達段階に応じた運営方法を指導し、課題を見付け、解決していく態度を育てる。	95	5	運営方法の指導が不十分。時間をとって指導する。 学級活動(2)(3)がほとんど実施されていない現状があると思う。年間指導計画を繰り返し、学校として系統的に指導できるようにしたい。
30	委員会やクラブ活動など、特別活動全体を通じて、自ら考え、行動する態度を育てることにより、自己有用感や社会に貢献する態度・能力を育てる。	97	3	クラブ活動を自分達で作り、運営する体制を作りたい。いわゆる「この指とまれ方式」クラブ掲示板を設置し、活動を自分たちで計画する体制を。 年度初めに特活部主体で教員向けと児童向けに特別活動オリエンテーションの機会を設け、活動の狙いや見通しをもてるようにしたい。
31	児童に働くことの意味を考えさせるとともに、将来に対する夢や希望をもつ機会を設ける。	95	5	できる範囲で実施しているとは思いますが… 家庭との連携ができていない。
32	人間関係で不快を感じている児童や不登校傾向、いじめを早期に発見し、学年、生活指導主幹、管理職に連絡するとともに、家庭と連絡を取りながら、全教職員の共通理解のもと対応策を講じ、早期解決を図る。(児童理解タイムの活用)	97	3	児童理解タイムの回数を減らす。学期に1回。
33	児童の事故、病気、その他のトラブルについて、速やかに学年主任、管理職に報告、相談して、組織的に対応する。特に首から上のケガについては、受診する方向で養護教諭と相談する。	100	0	
34	毎月1回、教職員が分担して校内の施設・設備を点検し、日常的な整備に努めるとともに異常があれば直ちに処置する。	97	3	
35	学校と地域が双方向での協力関係を構築するために、教員が地域やPTAの行事に参加し、保護者・地域の願いや期待を知る。	64	36	今年度は、コロナ感染のため参加できていない。 次年度に期待する。
36	学校だより、学年だより、学級だより、保護者会等を、教育活動の成果を知らせる場として活用している。	97	3	保護者会を開催できていない。学級閉鎖時にZoomで朝会を行ったので、Zoom保護者会等も検討し、担任が保護者へクラスや学級の様子を伝え、共有する機会ができるとうい。
37	学校ホームページを随時更新するとともに、学校生活のブログにより、各学年等の近況をタイムリーに発信する。	100	0	各学年の偏りがあるため、学校全体として情報を発信できるようにする。
38	幼稚園・保育園との交流を推進し、スタート・カリキュラムを実践する。また、松沢中学校や赤堤小学校との交流を深め、幼小小中の連携を図る。	74	26	スタートカリキュラムは実施した。幼小交流は、今年度は難しいと考えている。 スタートカリキュラムは実施していた。松沢中と赤堤小との交流はコロナ感染予防のため実施していない。
40	起案は、前年踏襲ではなく、各担当が課題を十分に把握した上で原案を作成し、主任、主幹、管理職の決着を経て各種会議に提案する。また、決着は、校務分掌上の主任、主幹、副校長、校長の順に3日前を原則に行う。	95	5	時間的に余裕が無くよく検討できていないこともあるので、早めに担当の部会に提案する。

41	校務分掌に関わる文書は、誰が担当しても分かるようにシステムを整える。	87	13	記録用紙のひな型を作成し、担当が「いつ」「どんな仕事を」「どのように」するのか記録し分掌ごとにまとめる。 起案の手順を定着させると、分掌内の複数の目で確認できる。 各分掌の作業データだけでなく、区教委への提出物コピー等や仕事内容をカレンダー（時系列）で記録として残すことで、前年度のいつ頃に何をしたか分かるようにする。 各部会で、意思疎通が取れていない。部会の内容の充実をしていきたい。 記録する形式を決め、いつまでに、だれが、どこで、何をするのか、何が必要なのかなど記入するものを作る必要がある。
42	ICT担当を中心に、校務支援システムを活用して、校務の効率化を実施し、児童と触れ合う時間を確保する。	87	13	特別支援学級の通知表も、校務支援システムを活用できるように、区教委と連携を図っていきたい。 校務支援システムをもう少し特別支援学級にも対応させてほしい。 校務支援システムが複雑で、慣れないため時間がかかる。
43	学校経営会議を、原則として毎朝7時40分から行き、経営情報の連携を図る。特別支援教育コーディネーターを中心に「校内委員会」を運営し、児童の状況を全教員が把握し、共通認識をもって指導できるようにする。	100	0	
44	児童と触れ合う時間を確保したり、ライフワークバランスを醸成したりするための働き方改革を推進する。また、スクール・サポート・スタッフを、教職員の校務軽減になるよう活用を図る。	85	15	特別支援学級でも、銀行引き落としで会計ができるように関係機関と連携して進める。 休憩時間の確保をとるか、休憩時間を使ってでも会議をして早く帰れるようにするか、会議の設定時間を決めようとするときに迷います。 会議や集まりが多すぎて自分の時間がない。 SSSは本当に助かっている。依頼をいつも快く引き受けてくださり、丁寧に仕事してくださり、色々と気を配ってくださり、とても助かっている。
45	学校経営計画に基づき、事務室が主導して予算委員会を運営し、予算の活用と重点化を図り、計画的に執行する。	95	5	予算委員会を設置する。 事務室がいつも柔軟に対応してくださりとても助かっている。 予算委員会の運営を把握できていない。
46	私費会計については、校内規定に基づき、会計事故防止に向けた事務処理を適切に行う。	90	10	転出入児の会計について事務処理の手引きを作成する。 学年で連携して取り組む。 特別支援学級でも、銀行引き落としで会計ができるように関係機関と連携して進める。
47	日常の校務遂行での「報告」「連絡」「相談」を徹底しつつOJTを重視し、職層に応じた指導を個別に明確にするとともに、主任教諭による若手教員のためのミニ研修会を計画的に実践する。	100	0	
48	教職員は、児童を指導する立場にあることを自覚し、常に人権感覚をもち、保護者や地域から信頼されるようにする。	100	0	
49	体罰、交通事故Oはもとより、サービスの厳正については、具体例をもとに徹底を図る。個人情報、金銭の管理については、校内規定に基づき高い意識をもって行う。	100	0	
50	学年、学級経営、校務分掌上の各種手続きについては管理職・主幹と相談しながら確実に処理する。	100	0	
51	保護者や地域は、教員個人として評価しない。「チーム松沢」の総合力を評価する。そのためには若手教員を育てるのは当然のことながら、教員相互が切磋琢磨しながらも支え合う組織とする。	100	0	